

エコアクション21 環境活動レポート



平成19年9月～平成20年8月までの活動報告

作成日 平成20年10月20日

株式会社 山崎商店

目次

- ・ 事業活動の概要
- ・ 環境方針
- ・ 組織図
- ・ 責任と権限
- ・ 環境目標とその実績
- ・ 環境活動の取組結果と評価
- ・ 緊急事態対応訓練
- ・ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
- ・ 代表者による全体の評価と見直し

事業活動の概要

会社名

株式会社山崎商店

代表者名

代表取締役 山崎 直子

所在地

本社・第1工場 長野県諏訪市高島1丁目1番地8号

第2工場 長野県諏訪市高島1丁目1118番地4号

環境管理責任者

営業部長 山崎 将寛

E-Mail m-yamazaki@yamazaki-shoten.co.jp

TEL 0266-52-6530 FAX 0266-52-6531

事業内容

製鋼原料・非鉄金属・再生資源全般



産業廃棄物収集運搬業	長野県	許可番号 2002004713
		許可年月日 平成20年7月20日 有効年月日 平成25年7月19日 新規許可日 昭和63年7月20日
産業廃棄物処理業 中間処理	長野県	許可番号 2022004713
		許可年月日 平成17年2月28日 有効年月日 平成22年2月27日 新規許可日 平成12年2月28日
一般廃棄物 (積替保管含む)	諏訪市	処分 許可番号(20)環処第2号
	諏訪市	収集・運搬 許可番号(20)環処第40号

事業規模

売上：2,131百万円（2007年度実績）従業員数：14人

敷地面積：本社・第1工場 879 m² 第2工場 1133 m²

建物面積：本社・第1工場 700 m² 第2工場 925 m²

主要設備

ギロチンシャー	1基	圧縮減容器	1基
シャーリング	2基	銅線剥離機	1基
フォークリフト	3台	4.9t リフマグ付天井クレーン	1基

40tトラックスケール	1基	30tトラックスケール	1基
金属分析器	1基		

施設及び処理の状況（収集運搬業者）

運搬車両ごとの車両形式、 規模・能力（積載量等）	脱着装置付コンテナ専用車	7000kg
	ダンプ（普通貨物）	8700kg・3250kg
	キャブオーバ（普通貨物）	6200kg・3000kg
	キャブオーバ（小型貨物）	3000kg
	キャブオーバ（軽貨物）	350kg
積み替え保管	積み替え保管なし	

施設及び処理の状況（処分業者）

処理施設の種類の、処理する 産業廃棄物の種類、設置場 所、設置年月日、処理能力 （規模）、処理方式、構造 及び設備の概要等	中間処理施設	長野県諏訪市高島一丁目1118番地4
	金属くずの圧縮・切断施設	
	平成12年2月8日設置	34.88t/日
	廃プラスチック類の切断施設	
	平成12年2月8日設置	1.2t/日
	木くずの切断施設	
平成12年2月8日設置	16.96t/日	
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設		
平成13年6月6日設置	30.88t/日	

沿革

- 昭和10年 4月（1935年） 創業者山崎新一、母ゆき子と共に諏訪市大和3丁目にて山崎商店を創業
- 昭和24年 （1949年） 諏訪市大字上諏訪789番地へ移転
- 昭和38年12月（1963年） 株式会社山崎商店として法人に改組し
諏訪市大字諏訪1023番地 資本金300万円
- 昭和41年11月（1966年） 資本金500万円に増資
- 昭和45年 1月（1970年） 諏訪市高島1-1-8（現在地）に事務所を移転
- 昭和49年12月（1974年） 資本金1000万円に増資
- 昭和55年 3月（1980年） 創業45周年記念を執り行う
- 昭和59年 4月（1984年） 諏訪市高島1-1114-8に製鋼原料加工処理工場を新築
- 平成 元年 8月（1989年） 資本金1500万円に増資
- 平成16年12月（2004年） 山崎直子が代表取締役役に就任
- 平成20年 6月（2008年） エコアクション21認証・取得

環境方針

基本理念

株式会社 山崎商店は、「大切にしよう 生命と自然」をスローガンとし、事業活動を通じて「自然との調和」を図り、循環型社会の形成に貢献していきます。

基本方針

1. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的な環境負荷の低減に取り組みます。
 - (1) 原料のユーザーが環境により良い製品を作れるよう、商品の品質向上に努めます。
 - (2) 産業廃棄物の適正処理に努め、再資源化を推進します。
 - (3) 電気、ガス等使用量を削減し、車両等のアイドリングストップを徹底します。
 - (4) 作業環境を安全かつ適正に整備し、事故の発生を防ぐとともに緊急事態に備えます。
 - (5) 環境教育を全従業員に実施し、環境活動レポートを通して、社内外に必要な情報を公表します。
2. 環境に関する法律・規則・協定を遵守します。
3. 地域環境への配慮と自社の環境整備を整え、汚染の予防に努めます。

平成 19 年 4 月 11 日

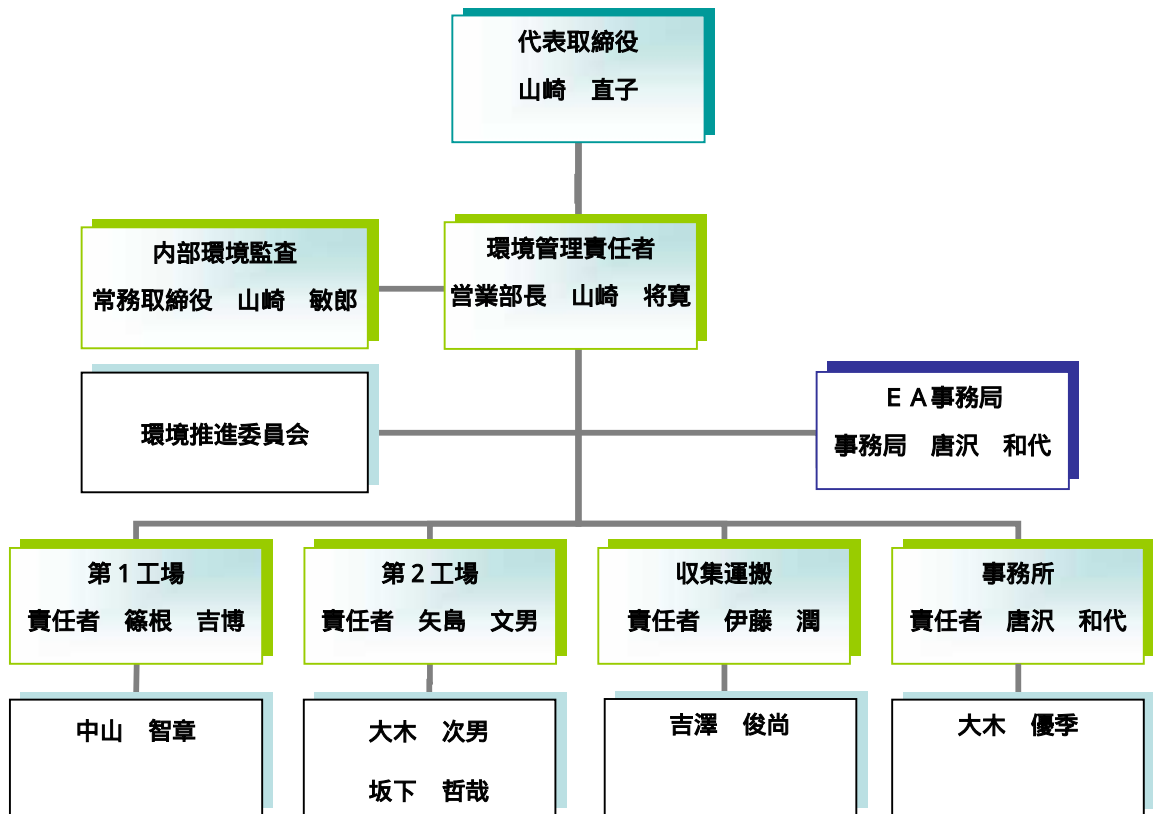
株式会社山崎商店

代表取締役 山崎 直子

組織図

環境マネジメントシステムを構築し、継続的な環境負荷の低減に取り組むにあたり E A 2 1 組織を定めました。環境推進委員会を設置し、環境目標に対する活動計画の実施状況を確認しています。

E A 2 1 組織図



責任と権限

責任者	役割
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針を策定する。E A 2 1 に必要な資源（人・物・金）を用意する。 環境管理責任者の選定。 E A 2 1 の全体的な取り組み状況を評価し、見直し、必要な指示を行う。
環境内部監査	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築・維持状況を監査する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムを構築し維持する。 環境経営システムの構築 運用状況を社長に報告する。

	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動レポートを取りまとめる。 環境推進委員会を開催する。
E A 2 1 事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐。 部門目標実行計画表の取りまとめ。 環境負荷の実績値集計。 文書・記録全般管理保管。
環境推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 原則として毎月1回開催し、実施状況の確認と必要な措置を検討する。 全体的な見直しのために、必要なデータを集計する。
事務所	<ul style="list-style-type: none"> 環境コミュニケーション。 節水を図り、水の使用量の削減。 節電を図り、CO2の削減を推進
第1工場	<ul style="list-style-type: none"> 自部門に関連する環境活動計画の実施及び実施状況の報告。 アイドリングストップの徹底。 廃棄物の分別によるリサイクル化の推進。 節水を図り、水の使用量の削減。 節電を図り、CO2の削減を推進。
第2工場	<ul style="list-style-type: none"> 自部門の関連する環境活動計画の実施及び実施状況の報告。 アイドリングストップの徹底。 廃棄物の分別によるリサイクル化の推進。 節水を図り、水の使用量の削減。 節電を図り、CO2の削減を推進。
収集運搬	<ul style="list-style-type: none"> 自部門に関連する環境活動計画の実施及び実施状況の報告。 アイドリングストップの徹底。 収集運搬ルートを見直し効率よくする。

環境目標とその実績

1. 環境目標とその実績

基準年は17年度を基準とする

	単位	H16年度 (H16 9-8)	H17年度 (H17 9-8)	H18年度 (H18 9-8)	H19年度 (H19 9-8)	H20年度 (H20 9-8)	H21年度 (H21 9-8)
二酸化炭素 排出量	Kg-co2 /t	6.345	7.643	7.09	5%削減	8%削減	11%削減
電力使用量	Kwh/t	7.32	7.48	6.78	3%削減	5%削減	8%削減
燃料使用量	L/t	1.43	1.8	1.62	2%削減	4%削減	6%削減
水資源投入量	m ³ /人	29.5	20.3	24.6	1%削減	2%削減	3%削減
産業廃棄物 リサイクル率	%	3%	26%	76%	目標 85%	目標 88%	目標 91%

自社の主な営業品目が金属（原料）のため、ここでのリサイクル率は金属類以外とする。
当社は金属の相場で売上げが左右されてしまうため、年間の扱量に対しての目標値を設定して
います。

扱量は自社工場への荷受量及び収集運搬量とする。

2. 活動内容

(1) 電気使用量削減

- ・ 節電シールを貼り社員全員の節電意識の向上を図る
- ・ 不使用設備の電源オフ徹底
- ・ O A 機器や設備などの省エネ商品の購入推進
- ・ 置場を見直し、クレーンの移動距離短縮

(2) 燃料使用量削減

- ・ トラック及びフォークリフトのアイドリングストップ推進
- ・ 低燃費車、低排出ガス車への切り替え
- ・ 作業環境を整え作業効率を上げる（無駄な稼働減）

(3) 水資源投入量削減

- ・ 節水シールを貼り社員全員の意識の向上を図る
- ・ 2層洗濯機から全自動への切り替え

(4) 産業廃棄物のリサイクル率向上

- ・ 社内勉強会により知識の向上
- ・ 社内での徹底選別及び管理体制整備
- ・ 分別ボックスを設置し、自社廃棄物の徹底選別
- ・ 排出先へ分別徹底の呼びかけ

環境活動の取組結果と評価

1. 環境活動の取組結果（期間：H19年09月～H20年08月）

	単位	実績値	目標値	達成率	達成度
二酸化炭素排出量	Kg-co2/t	7.968	7,261	91%	×
電力使用量	Kwh/t	5.68	7.26	128%	
燃料使用量	L/t	2.24	1.76	79%	×
水資源投入量	m ³ /人	13.7	20.1	147%	
産業廃棄物 リサイクル率	%	94.5%	85%	111%	

数値は扱量あたりで算出する。

水資源投入量は従業員数あたりで算出する。

	H 17 年度	H 18 年度	H 19 年度
総受入量	8,057t	9,470t	10,588t
うち産業廃棄物処分量	81t	98t	234t

	単位	H17 年度	H18 年度	H19 年度
二酸化炭素排出量	Kg-co2	61529	65301	84371
電力使用量	k w h	60262	62369	60202
燃料使用量	L	14492	14951	22801
水資源投入量	m ³	243	234	193
産業廃棄物リサイクル率	%	26%	76%	94.5%

二酸化炭素排出量 5%削減	燃料使用量の大幅の増加に伴い二酸化炭素排出量は増えてしまった。取引先の拡大や遠方の顧客確保など移動距離の長くなったのが要因である。燃費の削減を軸に排出量の削減に取り組みたい。
電気使用量 3%削減	大幅な削減ができた。社員の意識も高まり結果としても満足いく結果だった。今後更に削減できるよう、省エネ設備の導入なども検討していきたい。
燃料使用量 2%削減	前年度に対して車両1台、フォーク1台、増えてしまったため使用量は増えてしまった。今期から車両燃費の計測を始めたので、それも絡め削減に取り組んでいきたい。
水資源投入量 1%削減	節水シールでの呼び掛けにより、従業員の節水意識も高まり50%削減という結果となった。更なる削減に取り組みたい。
産業廃棄物リサイクル率85%	排出事業者に分別の徹底を呼びかけ、更に排出先の見直しにより目標値を上回る結果となった。継続して100%を目指したい。

2. その他の活動

アイドリングストップの呼びかけ

自社はもちろんのこと、来客の方にも理解していただくためステッカーをはり意識の向上を図りました。

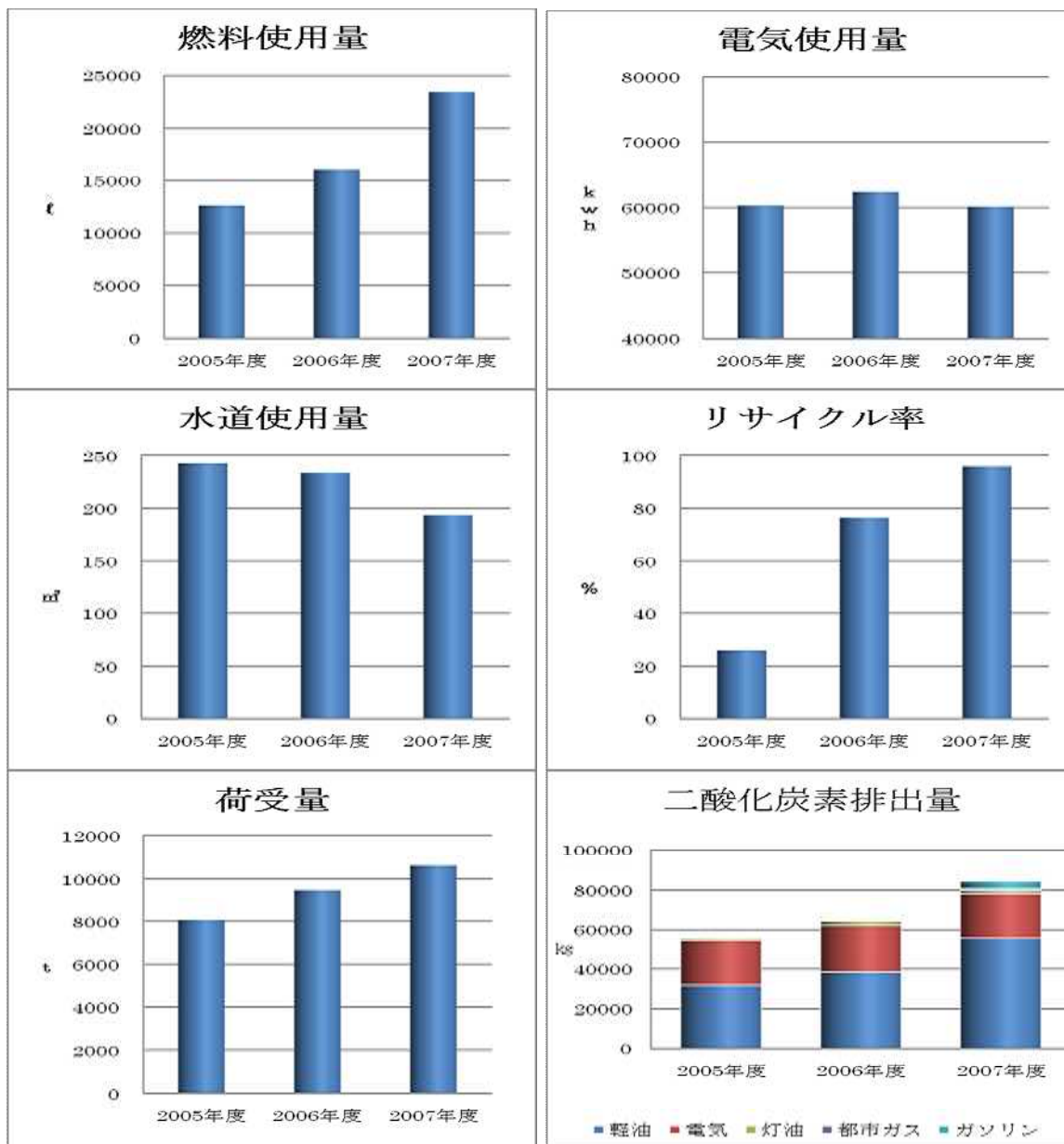


近隣の清掃美化

朝、夕の清掃の時間に近隣の清掃も積極的にするようにしました。



2. 過去3年間の実績



・緊急事態の対応訓練

教育訓練として緊急事態の対応訓練を9月と12月に行いました。

1. 油類の漏洩対応訓練

トラックにて引取って来たドラム缶入り金属粉を置き場へあけた際、含有していた切削油が第2工場の側溝へ流出したと想定。緊急事態対応訓練を実施した。



防油堤に流れた油類の汲取り作業



ビッグピートを撒き油を除去

2. 灯油の漏洩

暖房用ジェットヒーターに灯油を給油する際、ポリタンクが転倒し、灯油が流れたと想定した。工場内に設置してあるウエスで素早く灯油をふき取った。



・環境関連法規への違反、訴訟等の有無

チェック日 平成 20 年 9 月 2 日

法規・条例・規制	適用内容	チェック内容	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none">・ 中間処理施設の表示・ 保管量の遵守・ 産業廃棄物収集運搬許可、処理の契約締結・ 委託契約書の保管・ マニフェスト票の発行・ マニフェスト票の管理・ 産廃許可申請に関わる講習会受講	<p>掲示板</p> <p>量、高さ、掲示板</p> <p>契約の締結(受託物の種類)</p> <p>保管ファイル</p> <p>発行</p> <p>B票D票E票の返却</p> <p>受講の有無</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> 最終処分地の確認、受託先への報告 	確認、報告	
消防法	<ul style="list-style-type: none"> 消防用設備の設置、点検 	年1回	
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> 事務所・第1工場 地域指定：準工業地域 昼60dB、夜50dB 第2工場 地域指定：第1種住宅地域 昼50dB、夜45dB 	施設の変更の有無 測定結果	
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> 事務所、第1工場 地域指定：準工業地域 昼60dB、夜50dB 第2工場 地域指定：第1種住宅地域 昼50dB、夜45dB 	施設の変更の有無 測定結果	
諏訪市島崎一区との協定	<ul style="list-style-type: none"> 運搬車両の公道出入りについては安全運転を徹底する 騒音その他公害問題、交通安全などには留意する 		

違反、苦情、訴訟等

環境管理責任者が遵守の確認を行ったところ上記の結果でした。なお関係当局よりの違反の指摘ですが、平成20年4月17日午後3時頃、トラック駐車場より油水流れ、中門川へ流出していると諏訪地方事務所より連絡がありました。原因を調べたところ、工事中のオイルピット箇所に停めてあった請負会社の作業車から流れていることが判明。雨天の為、当社敷地から側溝へ流れてしまった模様です。流出措置を講じた後、諏訪警察署へ一連の顛末を報告するために、始末書(監督責任)を提出しました。他の指示、指摘、また近隣からのクレームも発生しておりません。

代表者による評価・見直し

H20年8月までの高調な経済状況下で車両・フォークリフト等、設備投資をしました。扱量の増加に比べて燃料使用量が大幅に増えています。作業の効率化と周辺環境に配慮した結果ですが、更にCO2の削減に取り組んでいきましょう。

電気・水道の使用量の削減やリサイクル率の向上から見て社員の環境に対する意識の高まりと周辺の環境美化も清掃等、実行力を評価します。

社員自ら環境を良くするために考えて行動するようになりました。継続して発展させましょう。

株式会社 山崎商店
代表取締役 山崎 直子